

学習指導要領の改訂をふまえた これからの食育のすすめ方

令和2年2月15日(土)

文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課
食育調査官 清久 利和



主催:大阪ガス株式会社
場所:大阪ガス「hu+g MUSEUM」

1

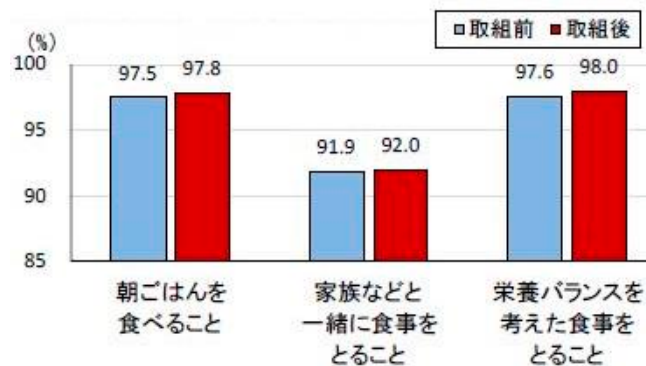
今日のメニュー

- 1 学校における食育の推進
- 2 学習指導要領の改訂
- 3 食に関する指導の手引の改訂

2

食に関する意識 各項目で「(大切だと)思う」・「どちらかといえば(大切だと)思う」と回答した児童生徒の割合

つながる食育推進事業の成果・効果

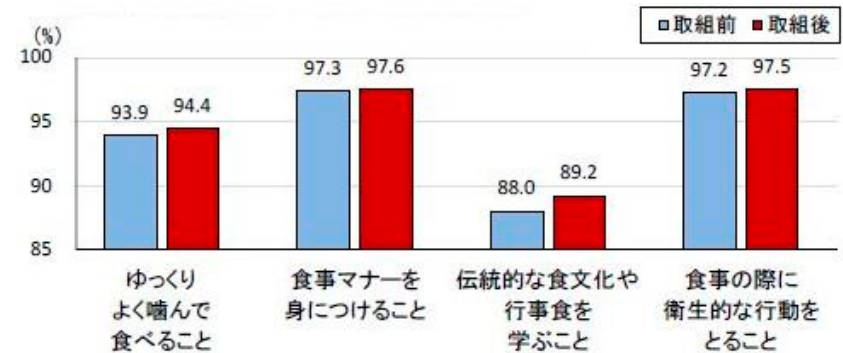


文部科学省「つながる食育の推進に向けて」リーフレットより

3

食に関する意識 各項目で「(大切だと)思う」・「どちらかといえば(大切だと)思う」と回答した児童生徒の割合

つながる食育推進事業の成果・効果



文部科学省「つながる食育の推進に向けて」リーフレットより

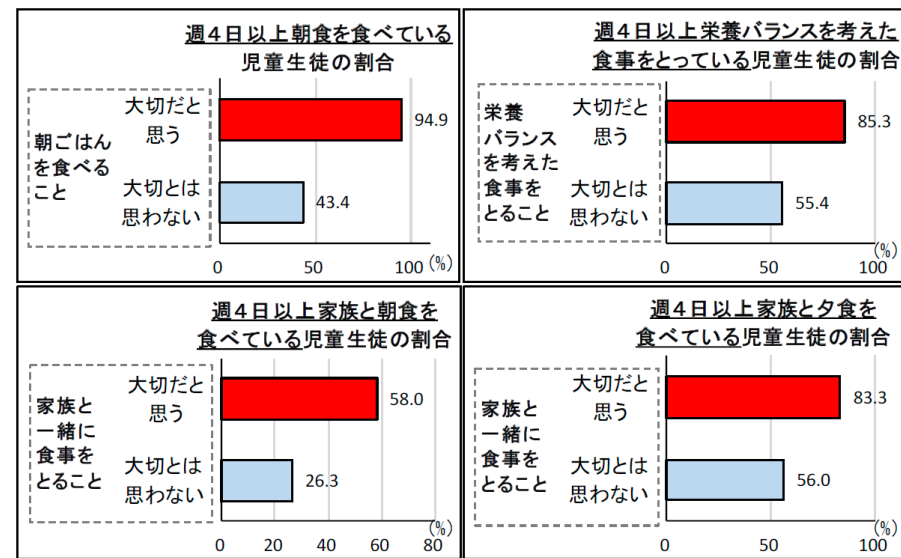
4

つながる食育推進事業の成果・効果

「朝ごはんを食べること」など7つの項目について大切だと思う子供の割合は、いずれも取組前より取組後の方が高くなっており、取組を通じて子供の食に関する意識が高まったことがわかります。

文部科学省「つながる食育の推進に向けて」リーフレットより

食に関する意識と食習慣には相関がみられた



(いずれも取組後の調査結果より)

つながる食育推進事業の成果・効果

約半年間という本モデル事業の期間内では子供の食習慣に大きな変化が見られなかったとしても、継続的な取組を通じて食に関する意識を高めていくことによって、長期的には食習慣が改善されていくことが期待されます。

文部科学省「つながる食育の推進に向けて」リーフレットより

Society5.0ってなに？

「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会、それが「Society(ソサエティ)5.0」です。第4次産業革命によって、新しい価値やサービスが次々と創出され、人々に豊かさをもたらしていきます。そこでは、AIが活躍する時代だと言われています。

AIが苦手なこと

- コミュニケーション能力を求められること
- 理解力を求められること
- 人間らしい柔軟で合理的な判断を求められること
- 高度な読解力を求められること
- 常識を求められること
- フレームにとらわれない発想力を求められること



学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、
子供の学びが進化します。新しい学習指導要領、スタート。
小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～ 高等学校：2022年度～
経路別には、2016年度に新しい学習指導要領(スタート)、初等中等学校は、小・中・高等学校の学習指導要領に合わせて実施。

学習指導要領改訂にこめられた思い

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。

そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

2020年度から始まる新しい「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

これまで大切にされてきた、子供たちに「生きる力」を育む、という目標は、これからも変わることはありません。

一方で、社会の変化を見据え、新たな学びへと進化を目指します。

生きる力 学びの、その先へ

学習指導要領改訂における3つのキーワード

① 各教科等の目標・内容を三つの柱に基づいて再整理

② 主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング)の視点

③ カリキュラム・マネジメントを重視

食に関する指導の手引 —第二次改訂版—



平成31年3月
文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

13

「食に関する指導の手引」作成の目的

学校における食育の一層の推進を図る



子供が発達段階に応じて

- 1 食生活に対する正しい知識
- 2 食に関する自己管理能力
- 3 望ましい食習慣
を身に付ける

 文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

14

食に関する資質・能力を踏まえた 指導の目標の明示

【食に関する指導の目標】

学校教育活動全体を通して、学校における食育の推進を図り、食に関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

(知識・技能)

食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるようにする。

(思考力・判断力・表現力等)

食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。

(学びに向かう力・人間性等)

主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。

15

食育の視点

- ・ **食事の重要性** 重要性 喜び 楽しさ
- ・ **心身の健康** 栄養 食事のとり方 自ら管理
- ・ **食品選択能力** 自ら判断できる能力
- ・ **感謝の心** 食べ物や食料生産者等への感謝の心
- ・ **社会性** 食事のマナー 人間関係形成能力
- ・ **食文化** 食にかかわる歴史 地域の産物

 文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

16

学習指導要領における食育の位置付け

(1) 学校における体育・健康に関する指導

第1章 総則 第1小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割

2(3) 学校における体育・健康に関する指導を、児童（生徒）の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科（保健体育科）、家庭科（技術・家庭科）及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

< >内は小学校のみの記載。（ ）内は中学校において記載。

食に関する指導の内容の三体系

- ① 教科等における食に関する指導
- ② 給食の時間における食に関する指導
- ③ 個別的な相談指導

食に関する指導の内容の三体系 ①教科等における食に関する指導

学校の教育活動
全体を通じて

「主体的・対話的で深い学び」の
視点からの授業改善

食育の視点



食に関する指導の内容の三体系 ②給食の時間における食に関する指導

〈給食指導〉

給食の準備から片付けまでの一連の指導の中で、正しい手洗い、配膳方法、食器の並べ方、箸の使い方、食事のマナーなどを体得

〈給食の時間における食に関する指導〉

- 献立を教材として用いた指導
- 学校給食の献立を通じて、食品の産地や栄養的な特徴を学習
- 教科等で取り上げられた食品や学習内容を確認 等

